

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400105		
法人名	株式会社 大地		
事業所名	グループホーム優芽 1号館		
所在地	北海道苫前郡苫前町字古丹別249番地9		
自己評価作成日	平成26年9月18日	評価結果市町村受理日	平成26年10月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0196400105-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の3月に1ユニット増築し、現在2ユニット入居者数18名満床となっていますが、入所して頂いたからには、いつまでも元気で笑顔で過ごして頂きたいと思っています。また今年度特に力を入れて実践しようと思っていることは、地域密着型なので、地域(近隣住民、保育所、中学校)への関わりや連携(社協、病院、消防)を密にし、情報交換等を行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度、1ユニット(定員9名)から2ユニット(定員18名)に増床し、住み慣れた地元で暮らし続けられるよう地域との協力関係や家族との連携に努めている。また、緊急時に備えて消防署の協力を得ながらAEDの使用法や救急救命の訓練を開催したり、本人の健康状態の把握や主治医と連携を取ったり、羽幌町や留萌市までの遠方でも通院への支援で適切な医療を受けられるようにしている。利用者一人ひとりのその日の希望によって、町内のイベントへの参加や保育園児との交流等で戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、外食ツアーや自宅への帰宅等で普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有する為の方法として、月1回の全体会議と各ユニットでの会議を行い、また受診報告や朝礼・夕礼での報告に関しても回覧し、18名の利用者の把握をするようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り上げ、毎月の全体会議や申し送り等を通じて話し合い共有し、その実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事にお手伝い参加させてもらったり、施設敷地内で行う行事に、保育所園児や中学生を招いたり参加するなど交流をしている。	事業所主催の行事に地元の人々に参加を呼び掛けたり、近隣の保育園児や中学生との交流など地元の人々との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事参加のお願いや消防避難訓練等に参加して頂き、認知症を理解して頂く場を作っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況報告をすると共に、運営面やサービスについて意見等をもらい、更なる向上を目指している。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、日常生活の様子や緊急時の避難方法等について具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今後、緊急時の避難訓練への地域住民のさらなる協力や地域に事業所への理解をさらに深めて戴けるよう検討しているので、その実践に期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場担当者と常にEメールや電話でのやり取りを密に行い、協力体制を築いている。	町担当者とは、日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	SOSネットワーク作りを今後進めて行くために関係機関との調整をさらに進めて行く計画があるので、その実践に期待します。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に理解させ、来訪者にも解かるように、各ユニットの玄関にも表示をしている。拘束しないようにするために、あらゆる方法がないかを職員とその都度話し合いを設ける。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、職員間で話し合い理解に努め、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会等を通じ、職員に理解させると共に、職員同士、利用者の身体状態の異常がないかを毎日確認し、言葉に対してもお互い注意し合う。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は外部研修に積極的に参加し、施設内研修で、他の職員に伝えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等を使用し、利用者又は家族に理解・納得するまで説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関に、意見箱を設置すると共に、苦情・相談窓口の掲示をしている。また運営推進会議に家族に参加して頂き、意見や要望を聞き、施設内会議に於いて運営に反映させている。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように、玄関入口に苦情・相談窓口の第三者機関への申し出先の掲示や意見受付箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議、施設(幹部)会議、介護職員会議等月に3回の会議を実施し、職員の意見や提案を反映させる機会を設けている。	ユニット毎の会議や介護会議などで職員の意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月幹部会議を行い、職員の努力や勤務状況を話し合い、労働時間外に於いて特別手当を支給し出勤・退社時間の厳守に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量の違いがある為、現場での統一を図るため、施設内研修を実施し、また町内や道内で行われているスキルアップ研修など積極艇に参加し、技量の向上を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との連携を取り、定期的に交流を行うと共に介護実務者研修に参加させ道内の他施設訪問を行い、質の向上を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時にご本人に不安や要望の聞き取りを行い、入所後に於いてもその都度職員が対応し安心して過ごせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に御家族に不安や要望の聞き取りを行い、入所後に於いてもその都度職員が連絡を取り、良い関係を保てるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接時に本人や御家族に必要としている支援を聞き取り、入所後の状態に応じ職員が対応をする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にして頂く為、できる事は自らやってもらい、身体状態に応じ、声掛けにより手伝ってもらいながら良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に職員が本人の身体及び生活状態を話したり、受診の報告をその都度連絡、また月末に状況表を職員が記載し、日常生活を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人との関係が途切れないように来訪しやすい環境作り心掛け、また散歩やドライブ等で馴染みの場所への訪問を支援している。	散歩や地元での買い物、地域の行事参加や帰宅支援等で、本人がこれまで大切にしてきた、馴染みの場所や友人・知人との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地元の出身者が多く、入居時も安心されている人が多く、孤立する人がいた場合は、ゲームやカラオケをしながら利用者同士の関わりを増やしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方に対しても、職員が自ら面会に行くなど本人や家族と接している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じ、思いや今までの暮らし方等、本人や家族に聞き、出来る限り支援できるようにしている。	一人ひとりの生活歴や力を活かして、買い物や散歩等支援しながら、意向や暮らし方の希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族に基本情報の記入とアセスメント作成時のモニタリングを行い、入所後に於いても聞き取りを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の身体状態の把握を行い、手伝い等をしてもらう。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望に対して反映できるよう、介護員会議やユニット会議で職員の意見を反映し介護計画の作成を行っている。	本人・家族の意見や要望、協力医療機関からの指導や助言、ユニット会議や全体会議を通じて職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌やユニット会議、介護員会議で共有した情報を介護計画書の見直しに生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当職員がその都度本人や家族に聞き、画一的なサービスにならないよう状況に応じた対応をしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人個々の状態を把握し、職員が協力してその人に合った暮らしを支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の健康状態等、常に主治医と連携を取りながら受診をして、すべて家族に報告している。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、遠方への通院支援や協力医療機関との連携等で適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態を細かく病院側に伝え、その人に合った適切な介護が出来るよう相談し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後3日毎面会し家族や病院関係者と情報交換や相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設のできる事を確実に理解してもらい、家族と病院関係者と今後の方針を協議し、支援に取り組む。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防火避難訓練後にAEDの取扱いに講習をおこなったり、9/9「救急の日」に消防署に行き、応急救護の講習をして急変や事故時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員がマニュアルを理解し、避難や緊急連絡方法を徹底し、近隣住民や消防、警察の協力体制を整えている。	年2回の火災避難訓練の実施や救急救命訓練も受講している。また、スプリンクラーや通報装置、火災報知器等の設備を完備し、定期点検も実施している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のユニット会議や介護員会議でその人に合った言葉使いや接し方を統一し、対応している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないようにミーティング等を通じて職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度担当者が本人から思いや希望を聞き取り、毎月の会議内で希望を叶えられる為の方法を話し合い実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活パターンを重視し、出来るだけ希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎地域の美容室にお願いし髪を切ってもらい、外出時には本人の意向を聞き、自分で選んで頂く等の配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を切ったり、盛り付けをしたり、片付けをしたりできる事は職員と一緒にやってもらっている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に調理の準備や盛り付け、後片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを元に調理を行い、その人に応じた量を提供し、摂取量を生活記録で把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛けにより口腔ケアをもらい、夜間義歯洗浄を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に応じた排泄方法を考慮し、排泄チェック表を確認しトイレで排泄してもらうよう支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表等で把握し、トイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	原因となるものを話し合い、毎日の運動や食事に配慮し定期的に排泄してもらえるよう支援している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後から入浴するようにして、本人の希望や受診の状態を考慮し、週2回以上入浴してもらっている。	週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、日中に於いても休息したり、夜間湿度や温度を計測し、安眠できるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明や注意等を服薬簿に綴り、いつでも確認できるようにし、服薬チェック表で誤薬が起きないように配慮している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季に応じた活動(例:花壇や野菜作り等)を積極的にやってもらっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域で開かれるイベントに参加したり、外食ツアーとして外での食事を楽しんでもらったり、天候に応じてドライブに出掛けたりしている。	散歩や買い物、ドライブやレストランでの外食など普段では行けないような場所へも出かけられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で預かるようにしているが、手元がないと不安な方がいるので、家族に了解を得て少量所持している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をしたり、手紙を書いている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾を行い、居心地良く過ごすて頂ける様工夫をしている。	安全面に配慮した平屋建て造りになっていて、共用空間には季節ごとの飾りつけや利用者の作品が掲示されるなど本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で本人が居心地良い場所で過ごしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具等を持参し、心地よく過ごしている。	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は散歩等運動出来るよう障害物を置かず、いつでも休むことが出来るようベンチや椅子を置いている。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400105		
法人名	株式会社 大地		
事業所名	グループホーム優芽 2号館		
所在地	北海道苫前郡苫前町字古丹別249番地9		
自己評価作成日	平成26年9月18日	評価結果市町村受理日	平成26年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の3月に1ユニット増築し、現在2ユニット入居者数18名満床となっておりますが、入所して頂いたからには、いつまでも元気で笑顔で過ごして頂きたいと思っています。また今年度特に力を入れて実践しようと思っていることは、地域密着型なので、地域(近隣住民、保育所、中学校)への関わりや連携(社協、病院、消防)を密にし、情報交換等を行います。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0196400105-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年10月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通い易い場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の間 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有する為の方法として、月1回の全体会議と各ユニットでの会議を行い、また受診報告や朝礼・夕礼での報告に関しても回覧し、18名の利用者の把握をするようにしている。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事にお手伝し参加させてもらったり、施設敷地内で行う行事に、保育所園児や中学生を招いたり参加するなど交流をしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事参加のお願いや消防避難訓練等に参加して頂き、認知症を理解して頂く場を作っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況報告をすると共に、運営面やサービスについて意見等をもらい、更なる向上を目指している。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場担当者と常にEメールや電話でのやり取りを密に行い、協力体制を築いている。			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に理解させ、来訪者にも解かるように、各ユニットの玄関にも表示をしている。拘束しないようにするために、あらゆる方法がないかを職員とその都度話し合いを設ける。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会等を通じ、職員に理解させると共に、職員同士、利用者の身体状態の異常がないかを毎日確認し、言葉に対してもお互い注意し合う。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は外部研修に積極的に参加し、施設内研修で、他の職員に伝えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等を使用し、利用者又は家族に理解・納得するまで説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関に、意見箱を設置すると共に、苦情・相談窓口の掲示をしている。また運営推進会議に家族に参加して頂き、意見や要望を聞き、施設内会議に於いて運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議、施設(幹部)会議、介護員会議等月に3回の会議を実施し、職員の意見や提案を反映させる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月幹部会議を行い、職員の努力や勤務状況を話し合い、労働時間外に於いて特別手当を支給し出勤・退社時間の厳守に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量の違いがある為、現場での統一を図るため、施設内研修を実施し、また町内や道内で行われているスキルアップ研修など積極艇に参加し、技量の向上を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との連携を取り、定期的に交流を行うと共に介護実務者研修に参加させ道内の他施設訪問を行い、質の向上を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時にご本人に不安や要望の聞き取りを行い、入所後に於いてもその都度職員が対応し安心して過ごせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に御家族に不安や要望の聞き取りを行い、入所後に於いてもその都度職員が連絡を取り、良い関係を保てるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接時に本人や御家族に必要としている支援を聞き取り、入所後の状態に応じ職員が対応をする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にして頂く為、できる事は自らやってもらい、身体状態に応じ、声掛けにより手伝ってもらいながら良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に職員が本人の身体及び生活状態を話したり、受診の報告をその都度連絡、また月末に状況表を職員が記載し、日常生活を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人との関係が途切れないように来訪しやすい環境作りに心掛け、また散歩やドライブ等で馴染みの場所への訪問を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地元の出身者が多く、入居時も安心されている人が多く、孤立する人がいた場合は、ゲームやカラオケをしながら利用者同士の関わりを増やしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方に対しても、職員が自ら面会に行くなど本人や家族と接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じ、思いや今までの暮らし方等、本人や家族に聞き、出来る限り支援できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族に基本情報の記入とアセスメント作成時のモニタリングを行い、入所後に於いても聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の身体状態の把握を行い、手伝い等をしてもらう。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望に対して反映できるよう、介護員会議やユニット会議で職員の意見を反映し介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌やユニット会議、介護員会議で共有した情報を介護計画書の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当職員がその都度本人や家族に聞き、画一的なサービスにならないよう状況に応じた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人個々の状態を把握し、職員が協力してその人に合った暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の健康状態等、常に主治医と連携を取りながら受診をして、すべて家族に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態を細かく病院側に伝え、その人に合った適切な介護が出来るよう相談し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後3日毎面会し家族や病院関係者と情報交換や相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設のできる事を確実に理解してもらい、家族と病院関係者と今後の方針を協議し、支援に取り組む。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防火避難訓練後にAEDの取扱いに講習をおこなったり、9/9「救急の日」に消防署に行き、応急救護の講習をして急変や事故時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員がマニュアルを理解し、避難や緊急連絡方法を徹底し、近隣住民や消防、警察の協力体制を整えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のユニット会議や介護員会議でその人に合った言葉使いや接し方を統一し、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度担当者が本人から思いや希望を聞き取り、毎月の会議内で希望を叶えられる為の方法を話し合い実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活パターンを重視し、出来るだけ希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎地域の美容室にお願いし髪を切ってもらい、外出時には本人の意向を聞き、自分で選んで頂く等の配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を切ったり、盛り付けをしたり、片付けをしたりできる事は職員と一緒にやってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを元に調理を行い、その人に応じた量を提供し、摂取量を生活記録で把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛けにより口腔ケアをもらい、夜間義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に応じた排泄方法を考慮し、排泄チェック表を確認しトイレで排泄してもらうよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	原因となるものを話し合い、毎日の運動や食事に配慮し定期的に排泄してもらえるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後から入浴するようにして、本人の希望や受診の状態を考慮し、週2回以上入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、日中に於いても休息したり、夜間湿度や温度を計測し、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明や注意等を服薬簿に綴り、いつでも確認できるようにし、服薬チェック表で誤薬が起きないように配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季に応じた活動(例:花壇や野菜作り等)を積極的にやってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域で開かれるイベントに参加したり、外食ツアーとして外での食事を楽しんでもらったり、天候に応じてドライブに出掛けたりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で預かるようにしているが、手元がないと不安な方がいるので、家族に了解を得て少量所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をしたり、手紙を書いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾を行い、居心地良く過ごして頂ける様工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で本人が居心地良い場所で過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具等を持参し、心地よく過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は散歩等運動出来るよう障害物を置かず、いつでも休むことが出来るようベンチや椅子を置いている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	この施設は、住宅密集地に属しているため、特に地域住民の理解を得る事が必要不可欠であり、認知症と言うものをはっきり理解してもらう必要がある。	行事や避難訓練等に参加してもらったり、地域のイベントにも参加や利用者に出来る事をお手伝いさせてもらう等関わりを増やし、最終的には行方不明者が出た時に協力して頂ける様にする。	施設行事には、案内文を作成し、1件1件参加の呼びかけを行う。避難訓練に於いても、住民の協力が必要である為、事前研修を行い認知症を理解してもらう。他の施設に出向き保育園やその保護者、中学校生のイベントに参加させてもらう。	1年
2	4	日頃より苦前町役場の担当者とは、Eメールや、電話等で連絡は取り合っているが、行方不明者が出た時の為に更なる協力をしてもらわなければならない。	苦前町・羽幌町・初山別村の3町村が協力し、役場・消防・警察・病院・タクシー会社・他施設が連携をとり、行方不明者が出た時、即対応し発見できるようにしたい。	各地域で実施されている「SOSネットワーク」を参考に苦前町役場や社協に相談しながら進めていき、現行はマニュアルを作成し、近隣に協力をお願いを行う。	6ヶ月 ～ 2年
3	23				
4	31				
5	45				

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。